



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第 15 号

2011年3月17日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒252-8530

神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学 看護医療学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail: jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp

FAX: 0466-49-6225

外来における診療報酬行為についての看護の評価の伸展を概観して

日本看護系学会協議会 理事 数 間 恵 子



社会において人々の健康生活を支援する看護の機能の重要性は言うまでもありませんが、それを具体的に示すものの一つとして、診療報酬上での評価があります。診療報酬上で評価されることによって、世界に冠たる我が国の国民皆保険制度のもと、人々に必要な医療・看護の行為を提供することができることとなります。

私は、約20年来、医療機関の外来での看護提供に関わる診療報酬(精神科領域を除く)に関心を持って観察してきました。そこで、その動きについてこれまでを概観し、今後の課題について言及してみたいと思います。

病院外来での看護の提供に関しては、昭和23年に医療法で患者30人対看護職1名を配置すると定められてから今日まで変更がありません。しかし、その当時とは疾病構造が変化し、医療技術が大きな進歩を遂げました。また、人口の高齢化は疾病構造の変化とあいまって、慢性疾患や慢性的に医療処置を要する人々の増加に拍車を掛けています。

そのような状況を背景として、平成4年に医療法の第二次改定が行われ、在宅医療が法制化され、外来看護に関わる診療報酬として初めて「在宅療養指導料」が評価されました。これは、それまでに認められていたインスリンの自己注射や在宅酸素療法などを含め、様々な医療処置を医療機関以外で自己管理することを支援することに対して認められたものです。なお、ここでいう「在宅医療」の対象には、我が国では、居宅での療養者(いわゆる訪問診療・看護を要する人々)以外に、外来に通院しながら医療機関外での医療処置の自己管理をしつつ職業生活などを送る人々が含まれます。この「在宅医療」というネーミングは、その対象となる人々や関係の医療者にとって「居宅療養」を強くイメージさせ、このことも「在宅療養指導料」による診療行為の提供が浸透するのに時間がかかった遠因かもしれないと思います。事物をどのように呼称するかが、その活動が社会や関係者に受け入れられ、広がっていくことに関わる、重要な要素であると感じた次第です。

その後、外来看護に関わる診療報酬(看護職を含めて多くの職種が行える行為、および特定の要件を満たす看護職が行える行為を含む)は、平成10年「摂食機能療法」、同14年「外来化学療法加算」、同18年「ウイルス疾患指導料-2

加算」「喘息治療管理加算」「ニコチン依存症管理料」、同20年「糖尿病合併症管理料」、同22年「リンパ浮腫指導管理料」「がんカウンセリング料」と評価されてきました。この流れを見て気づくことは、

まず、看護職を評価する項目の評価の間隔が徐々に短くなっていること、平成18年以降は改定のたびに新規の評価が増えていることです。この背景には、平成17年に看護系学会等社会保険連合が成立し、看護の機能の評価を後押しする社会の動きも大きいと考えられます。

また、各診療報酬算定要件のなかで、看護職を含めることを要件として含む項目がほとんどで、かつ、要件として含める看護師に一定の経験などを求める方向がはっきりしてきていることです。その流れは、平成14年「外来化学療法加算」、同18年「ウイルス疾患指導料-2加算」、同20年「糖尿病合併症管理料」、同22年「リンパ浮腫指導管理料」「がんカウンセリング料」に表れています。これは、提供する診療報酬行為の質を担保する上で極めて重要です。併せて診療報酬行為のガイドラインや標準テキスト、実践指針等が求められ、診療報酬評価の獲得と併せてその後の関係学会等のフォローが求められるところであり、「糖尿病合併症管理料」はそのよいモデルです。このフォローが確実に行われないと、せっかく評価された診療報酬行為を人々に確実に届けることはできません。

近年の入院期間の短縮が進む中、退院後の居宅療養の支援の充実と併せて、疾病をもった生活への適応を支援する場としての外来での看護提供は、益々重要性を増しています。病院外来での看護に対する診療報酬上の評価が進むことによって、人々が必要とする看護を提供することができます。看護が必要な状況かどうかは、看護職でないと判断できません。したがって、看護系学会所属会員学会は、看護職が働きかけて得られる成果のエビデンス産出と併せて、それを必要とする人々に提供するための基盤として診療報酬の評価が得られるようにすること、そして、提供する行為の質の担保のための活動を組織的に実施することが必要です。それによって、看護の社会における機能の評価がさらに確かなものになっていくと期待されます。

第12回日本看護系学会協議会シンポジウム 「高度実践看護師の認定における学会の役割」

平成22年12月4日に、第12回日本看護系学会協議会シンポジウムが、第30回日本看護科学学会学術集会会場であった札幌コンベンションセンターで行われました。座長は、岡谷恵子氏（近大姫路大学）、片田範子氏（兵庫県立大学）が務め、日本看護系大学協議会より田村やよひ氏、日本学術会議看護学分会より内布敦子氏、日本専門医制評価・認定機構より松田暉氏（兵庫医療大学）のご発言をいただき、満員の会場では熱いディスカッションが展開されました。詳しい内容は、本協議会ホームページ<http://www.jana-office.com/>でもお読みいただけます。



高度実践看護師の検討経過と認定における学会への期待

日本看護系大学協議会 田村 やよひ

日本看護系大学協議会（JANPU）は、21世紀初頭から次世代の専門看護を担う人材の育成に関して検討を進めてきた。2005年に高度実践看護師制度推進委員会を設置し、2007年には高度実践看護師のコンピテンシー、2009年にはその教育課程として38単位を提案した。

今年度は、厚労省のチーム医療の推進に関する検討会やチーム医療推進会議の議論を受けて、総会での了解の下、「特定専門看護師」の名称で43単位の教育内容の検討を進めようとしたが、検討会やWGの議論の先行きが不透明なことから、現在は38単位の教育内容を検討中である。検討結果は、来年のJANPU総会に提案したいと考えている。この案であれば、特定看護師(仮称)が制度化された場合、その教育を目指す大学では、実際の臨床場面に活用できるよう演習5単位を加えたカリキュラムにすることが可能である。

認定に関しては、厚労省の検討会報告でも第三者機関について述べられている。それを踏まえると、高度実践看護師に関する第三者機関は、JANPUと日本看護系学会協議会（JANA）および日本看護協会、その他関係団体を中心になって構築されることが必要

と思われる。この第三者機関が資格認定・更新する看護師の範囲としては、既存の専門看護師、養成試行中の特定看護師(仮称)、今後養成されるだろう特定専門看護師、将来はナースプラクティショナーなどが入るのではないだろうか。



JANAには37の看護系学会が参加しているが、認定における学会が果たす役割は大きい。具体的には、1. 看護専門領域の確立(その領域の学問的な裏づけ)、2. 高度実践看護師の質の担保(専門領域ごとの看護実践能力の提案、高度な看護実践に関するガイドラインの作成、個人の資格認定や更新のための試験問題の作成・評価基準の作成、資格更新に必要な継続教育の提供)、3. 医学や薬学など他の関連学会との連携などである。JANAのリーダーシップと各学会の今後の活動に期待している。

高度実践看護師の認定における学会の役割 —日本学術会議看護学分会の立場から—

日本学術会議看護学分会 内布 敦子

2007年日本学術会議は対外報告「学協会の機能強化のために」を発表し、学術団体は、学術の向上によって人類社会への貢献する使命を持っていることを強調している。科学技術における新しい発見や新しい技

術が社会に適用されるだけでなく、人類社会における複雑な問題の解決のために重要な示唆を与えることは、もっとも重要な学術団体の存在意義でもある。また、各専門領域の学術団体はそれぞれ専門的な知



識や技術を持った専門家といわれる人々を生み出し、社会の仕組みの中で「認定」といった形でその質を保証し、信頼されるサービスの提供が行われるような社会の仕組みの一部として機能している。多くの専門領域は専門学会が認定の役割を担っ

ている。例えば医師における専門医認定などがそれにあたる。学会の本来の機能として、会員の能力開発、資格などによる能力保証などが挙げられ、それによって学会は専門家の社会的認知を向上させ、国民の専門家に対する安心感や実際のサービス提供における安全を保証する役割を担っている。

看護学でもそれは同様であり、日本版高度実践看護師の認定は看護系の各専門学会の貢献なしにはありえない。専門性が何かを最もよくわかっているのはまずその専門の学会であることは間違いのないことであろう。最新の知見を最も早くキャッチするのは専門学会であるし、その研究蓄積について最もよく知っているのは専門学会である。当然のことながら高度実践看護師のそれぞれの専門領域をカバーする専門学会は、当該領域の看護の専門性について最もよく知る立場にあるといっても過言ではない。そうなること必然的に高度実践看護師の認定に深く関わる必要

が生じてくるだろう。

私は、高度実践看護師の認定基準は学会が作るべきと考えており、以下のように役割を担うべきと考えている。

1. 高度実践看護師共通コンピテンシー検討をすべての看護各領域が参加して行う。
2. 領域別コンピテンシーを学会の総意で作成する。
3. 個人申請に対応してその領域のコンピテンシーの審査基準を提示する。
4. 各領域におけるスタンダードを世界標準を意識して関連医学会等の協力を得て開発する。
5. 高度実践看護師は医療行為に相当踏み込むことが予測されるので関連医学系学会と協議して医療介入ごとのプロトコルのひな形を作成する。
6. スタンダードやプロトコルの評価を継続的にを行い総括、改善、改変を繰り返す。
7. 高度実践看護師の実践にエビデンスを提供する。
8. 高度実践看護師のコンピテンシー維持向上をサポートする。

加えて、高度実践看護師の教育課程の認定はこれまで専門看護師教育課程認定と同様、看護系大学協議会が担うべきであり、日本看護系学会協議会との緊密な連携のもとに教育の専門家による高度実践看護師教育課程の基準というものが作成され運用されるのが最も妥当な体制であり、個人認定に関しては臨床現場も含む関連団体の総意で行うことができるように第三者認定機構を組織することが望まれる。

JANAによる「特定看護師(仮称)に関する提言」： —ケアとキュアの融合によりチーム医療の推進をめざす—

高度実践看護師制度検討委員会委員長 小松 浩子

今年度、JANA会員学会が足並みをそろえて取り組んだ事業のひとつに、「特定看護師(仮称)に関する提言」の作成があります。提言の作成は、最終段階を迎えています。現在、2月に作成したドラフトに対する各学会のご意見をもとに最終案を作成中です。最終案に対する学会の承認をへて厚生労働省に提出の予定です。今回の提言で強調した点は下記の通りです。

○会員学会の意見を集約し、特定看護師(仮称)は、複雑(多要因が絡む)な健康問題を持つ患者に対し、最善の健康状態とQOLを生むために、看護行為と医行為の融合による包括的な臨床判断や意思決定を行い、治療過程、生活過程を支援・促進すること、そのために、他の専門職者と連携・協働し、チームアプローチを推進できる高度の臨床実践能力が必要と考える。

○特定看護師(仮称)の実践力を保証する要件と

しては、①基盤となる臨床看護実践能力、②看護専門分野(Specialty)にかかわる実践能力、③看護専門分野における医行為を実践する能力が必要と考える。

以上、特定看護師(仮称)は、ケアとキュアの融合によりチーム医療を推進できる高度実践看護師としての能力が必要と考える。JANAは、看護学の専門家集団の立場から、特定看護師(仮称)の専門的能力の質担保に貢献することは責務と考える。そのため今後、JANAが率先し、看護諸学会において集積された知見やエビデンスに基づき、認定に必要な専門分野のコンピテンシーを提示する。さらに、医学、薬学等の関連学会の協力を得て、認定および認定継続に必要な継続教育プログラムの運用・評価を行っていく。

会員学会の皆さまのご意見をいただき、最終案を仕上げたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。

ナーシングサイエンスカフェ Nursing Science Café 事業について



- ◆日本看護系学会協議会では市民との対話や、次世代を担う人が看護学について情報を得る機会を提供することを目的として、Nursing Science Caféの支援を行っております。
- ◆今後この事業がさらに発展し各々の会員学会の特徴にあわせて実施されることで、看護の取組が一般市民に可視化され、次世代の育成に貢献していくことが期待されています。
- ◆日本看護系学会協議会事務局では、Nursing Science Caféに御来場いただいた方に差し上げる記念グッズを準備しております。グッズは、付箋と注射器型のマーカーです。今後も中学生・高校生の皆様と看護の専門家が集まって、語り合える場としてNursing Science Caféをぜひ開設していただければと存じます。
- ◆グッズをご希望の場合は、①学術集会名・期間、②カフェ募集人数、③グッズの送付先、④メール等の連絡先を事務局 jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp までお知らせください。
- ◆グッズの提供を受けた学会は、終了後に参加人数を事務局まで報告していただきますようお願い致します。また、送付したグッズが10セット以上残った場合は、事務局までグッズを返却下さいますようお願い致します。

平成23年度日本看護系学会協議会総会のご案内

日 時：平成23年6月5日(日)13時～

場 所：慶応義塾大学 信濃町キャンパス

東京都新宿区：JR中央線・総武線「信濃町」駅下車徒歩約1分

会員学会のご参加よろしくお願いたします。

日本看護系学会協議会会員名簿（平成23年3月4日）

会 員 名	会 員 名
・ 高知女子大学看護学会	・ 日本循環器看護学会
・ 聖路加看護学会	・ 日本小児看護学会
・ 千葉看護学会	・ 日本助産学会
・ 日本家族看護学会	・ 日本新生児看護学会
・ 日本看護科学学会	・ 日本腎不全看護学会
・ 日本看護管理学会	・ 日本生殖看護学会
・ 日本看護技術学会	・ 日本精神保健看護学会
・ 日本看護学教育学会	・ 日本赤十字看護学会
・ 日本看護教育学会	・ 日本地域看護学会
・ 日本看護研究学会	・ 日本糖尿病教育・看護学会
・ 日本看護診断学会	・ 日本難病看護学会
・ 日本看護福祉学会	・ 日本母性看護学会
・ 日本看護歴史学会	・ 日本慢性看護学会
・ 日本がん看護学会	・ 日本ルーラルナーシング学会
・ 日本救急看護学会	・ 日本老年看護学会
・ 日本クリティカルケア看護学会	・ 日本看護医療学会
・ 日本災害看護学会	・ 日本看護倫理学会
・ 日本在宅ケア学会	・ 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
・ 日本手術看護学会	・ 日本アディクション看護学会

【役員】

会 長	太 田 喜久子
副会長 (学術振興会)	片 田 範 子
副会長 (庶 務)	小 松 浩 子
理 事 (企 画)	遠 藤 俊 子
理 事 (会 計)	数 間 恵 子
理 事 (会 計)	河 口 てる子
理 事 (学術振興会)	島 内 美 恵子
理 事 (広 報)	田 中 美 恵子
理 事 (モデル事業)	手 島 恵
理 事 (企 画)	野 嶋 佐由美
理 事 (庶 務)	宮 脇 美保子
理 事 (学術会議)	南 裕 子
監 事	川 嶋 みどり
監 事	金 川 克 子

－編集後記－

3月11日に発生いたしました東北関東大震災で甚大な被害にあわれた方々に、心からお悔やみを申し上げます。被災地の皆様が一刻も早くこの惨事を乗り越えられますよう心よりお祈り致します。支援に役立つマニュアルを兵庫県立大学地域ケア開発研究所のご厚意で、JANAのHPに掲載しております。ボランティアで出かける看護職の方がおられましたら、ぜひご活用ください。
(広報担当：田中美恵子)

日本看護系学会協議会会員学会

2011年2月23日現在

	学会名	理事長	学会連絡先					ホームページアドレス
			郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	
1	高知女子大学看護学会	松本女里	781-0111	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-5524	(088)-847-5524		松本女里 http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
2	聖路加看護学会	山田雅子	104-0044	東京都中央区明石町10-1	(03)-3543-6391	(03)-5565-1626		山田雅子 http://sinr.umin.jp/
3	千葉看護学会	宮崎美砂子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内		(043)-226-2421	marikomj@faculty.chiba-u.jp	増島麻里子 http://cans.umin.jp/
4	日本家族看護学会	石垣和子	261-0014	千葉県千葉市美浜区若葉2-10-1 千葉県立保健医療大学健康科学部内	(043)-272-2869	(043)-272-2869	family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp	石垣和子 http://square.umin.ac.jp/jarfn/
5	日本看護科学学会	片田範子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)-5805-1280	(03)-5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	片田範子 http://jans.umin.ac.jp
6	日本看護学教育学会	小山真理子	105-0012	東京都港区芝大門2-12-6 芝ハタビル402	(03)-5472-7455	(03)-5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	小山真理子 http://www.jane-ns.org
7	日本看護管理学会	鶴田恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本看護管理学会事務局	(03)-3409-1290	(03)-3409-1290	janap@redcross.ac.jp	鶴田恵子 http://janap.umin.ac.jp
8	日本看護技術学会	小坂橋喜久代	371-8511	群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学医学部保健学科 統合医療プロジェクト室内	(027)-220-8907	(027)-220-8907	jsnas@health.gunma-u.ac.jp	小坂橋喜久代 http://www.jsnas.jp/
9	日本看護教育学会	永野光子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部 看護教育学教育研究分野気付	(043)-226-2397	(043)-226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟島なをみ http://jasne.umin.jp
10	日本看護研究学会	山口桂子	260-0015	千葉県千葉市中央区富士見2 丁目22番6号 富士ビル6階	(043)-221-2331	(043)-221-2332	jsnr@bridge.ocn.ne.jp	山口桂子 http://www.jsnr.jp
11	日本看護診断学会	江川隆子	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマ キレビル(旧グローバルエクス プレス・国際会議センター内)	(03)-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	藤村龍子 http://jsnd.umin.jp/
12	日本看護福祉学会	岡崎美智子	810-0072	福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 国際医療福祉大学 福岡看護 学部天神キャンパス内	(092)-739-4321	(092)-739-4343	okazaki-m@iuhw.ac.jp	岡崎美智子 http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
13	日本看護歴史学会	芳賀佐和子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0613	(03)-3409-0589	yamazaki@redcross.ac.jp	山崎裕二 http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
14	日本がん看護学会	鈴木志津枝	651-2103	兵庫県神戸市西区学園西町3-4 神戸市看護大学内		(078)-794-8525	iinok@adm.ncn.ac.jp	飯野京子 http://jscn.umin.jp
15	日本救急看護学会	中村恵子	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 株へるす出版事業部内	(03)-3384-8030	(03)-3380-8627	jae n @herusu-shuppan.co.jp; jaen-adm@umin.ac.jp	中村恵子 http://jae n .umin.jp
16	日本クリティカルケア看護学会	黒田裕子	252-0329	神奈川県横浜市北区2-1-1 北里大学大 学院 看護学研究科クリティカルケア看護学 日本クリティカルケア看護学会事務局	(042)-778-9385	(042)-778-9385	jaccn-office@umin.ac.jp	黒田裕子 http://jaccn.umin.jp/
17	日本災害看護学会	山田覚	781-0111	高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-8705	(088)-847-8705	jsdn@univcoop.or.jp	竹崎久美子 http://www.jsdn.gr.jp/
18	日本在宅ケア学会	白澤政和	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビ ル2F(株)ワールドプランニング内 日本老年看護学会事務局	(03)-5206-7431	(03)-5206-7757	world@med.email.ne.jp	白澤政和 http://plaza.umin.ac.jp/~jahhc/
19	日本手術看護学会	菊地京子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	(03)-3813-0485	(03)-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星正行 http://www.jona.gr.jp/index.shtml
20	日本循環器看護学会	吉田俊子	981-3298	宮城県黒川郡大和町学苑1番1宮城大 学看護学部 吉田研究室内 日本循 環器看護学会事務局 淡路理智子	(022)-377-8242	(022)-377-8242	yosidats@myu.ac.jp	淡路理智子 http://janap.umin.ac.jp
21	日本小児看護学会	及川郁子	166-8532	東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局	(03)-5307-1175	(03)-5307-1196	jschn@univcoop.or.jp	及川郁子 http://jschn.umin.ac.jp/
22	日本助産学会	堀内成子	111-0054	東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階	(03)-3865-3032	(03)-3866-3032	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	松岡恵 http://square.umin.ac.jp/jam/
23	日本新生児看護学会	横尾京子	734-8553	広島県広島市南区霞1-2-3 広 島大学大学院保健学研究科内	(082)-253-4636	(082)-253-4636	yokoo@hiroshima-u.ac.jp	藤本紗央里 http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
24	日本腎不全看護学会	水附裕子	231-0013	神奈川県横浜市住吉町1-4 第3白井ビル5-A	(045)-226-3091	(045)-226-3092	y.uda@kki.ac.jp	宇田有希 http://www11.ocn.ne.jp/~jann1/
25	日本生殖看護学会	森明子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本生殖看護学会事務局	(03)-6226-6380	(03)-6226-6380	jsin@slcn.ac.jp	森明子 http://jsin.umin.jp
26	日本精神保健看護学会	田中美恵子	169-0075	東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献印刷社内	(03)-5389-6254	(03)-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	野末聖香 http://www.japmhn.jp/
27	日本赤十字看護学会	濱田悦子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-5485-5777	(03)-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	川嶋みどり http://jrcsns.umin.ne.jp/
28	日本地域看護学会	村嶋幸代	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東 京大学医学部地域看護学教室 内 日本地域看護学会事務局		(03)-5841-3648	chikango-acd@umin.ac.jp	永田智子 http://jachn.umin.jp/
29	日本糖尿病教育・看護学会	嶋森好子	170-0004	東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚 3F(株)ガリレオ学会業務情報センター内 日本糖尿病教育・看護学会事務局		(03)-5907-6364	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	嶋森好子 http://jaden1996.com/
30	日本難病看護学会	牛込三和子	183-8526	東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)-325-3881	(042)-328-7311	nanbyo@auhw.ac.jp	牛込三和子 http://square.umin.ac.jp/intrac/

日本看護系学会協議会会員学会

2011年2月23日 現在

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail	宛先 (担当者)	
31 日本母性看護学会	高橋 眞 理	252-0329	神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 日本母性看護学会事務局	(042)-778-9826	(042)-778-9826	jsmn@mcn.ac.jp jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp	竹 明 美	http://www.mcn.ac.jp/bosei/
32 日本慢性看護学会	野 並 葉 子	673-8588	兵庫県明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石キャンパス 日本慢性看護学会事務局	(078)-925-9447	(078)-925-0878	chronic.n@cnas.u-hyogo.ac.jp	野 並 葉 子	http://jscicn.com/
33 日本ルーラルナース学会	野 口 美和子	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	(0285)-58-7512		ynagai@jichi.ac.jp	永 井 優 子	http://www.jasrun.org/
34 日本老年看護学会	太 田 喜久子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F (株) ワールドプランニング内 日本老年看護学会事務局	(03)-5206-7431	(03)-5206-7757	world@med.email.ne.jp	太 田 喜久子	http://www.rounenkango.com/
35 日本看護医療学会	梶 田 悦 子	461-8673	名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻内 日本看護医療学会事務局	(052)-719-1922	(052)-719-1922	fonishi@fujita-hu.ac.jp	大 西 文 子	http://www.jsnhc.org/leftpages/ask/ask.html
36 日本看護倫理学会	高 田 早 苗	135-8550	東京都江東区有明3-8-31 癌研有明病院 看護部内 濱口恵子			keiko.hamaguchi@jfc.or.jp	濱 口 恵 子	http://ine.umin.jp/
37 日本創傷・オストミー・失禁管理学会	真 田 弘 美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階 (株) 春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	(03)-5291-6231	(03)-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	真 田 弘 美	http://www.etwoc.org/
38 日本アクション看護学会	松 下 年 子	350-1241	埼玉県日高市山根1397-1 埼玉医科大学保健医療学部 看護学科 松下年子研究室内 日本アクション看護学会事務局	(042)-984-4925	(042)-984-4922	jssan@saitama-med.ac.jp	日 下 修 一	http://plaza.umin.ac.jp/~jaddictn/